

# 社会学科生のための学びのガイド

2015



明治学院大学社会学部社会学科

## はじめに

ご入学おめでとうございます。今、これから始まる大学生活に胸を膨らませていることと思います。社会学とはどのような学問なのか、大学とはどのような勉強をするところなのか、不安もあるかもしれません。

この冊子は、これから4年間の皆さんの日々の学習を支える「ガイド」です。

前半部分には、4年間の学習がどういう順番で進んでいくのか、社会学科の専任スタッフにはどのような先生がいるのかに関する資料が載っています。早くから自分にあった履修の計画を立て、コース選択（1年秋）、ゼミ選択（2年秋）、演習1、演習2と関心を深めていけるようにしましょう。

後半部分には、「勉強の仕方」や「資料の探し方」に関する資料をまとめました。大学での学びは、自分で本や資料を調べ、自分の考えを客観的にまとめ上げていくことが必要になります。発想の仕方や調べものをする技術、レポートや論文の書き方は、社会学科生が全員履修することになっている「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」（1年次）と「コース演習」（2年次）や、「演習1」（3年次）、「演習2」（4年次）、さらには日々の講義や社会調査関連科目の中で、詳しく学んでいくこととなりますが、ぜひこの冊子を手元に置いて、早いうちから勉強やレポート作成の手助けとるようにしてください。

本ガイドの内容は、社会学部のホームページ (<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) にも記載されています。ホームページの情報は、毎年更新されることがありますので、ぜひあわせて利用してください。先生方のさらに詳しい紹介は、冊子『社会学とはどのような学問か』（こちらホームページに最新版を掲載）にも載っています。

大学での勉強の仕方に戸惑うこともあるかもしれません。この冊子を使いこなして、それぞれの学びを深めていくことを願っています。

社会学科 教員一同

# 目 次

社会学科の学びの進め方 .....	3
4年間の学びの見取り図 .....	4
コース制とは.....	6
社会調査関連科目～社会調査士取得への道～ .....	8
専任教員紹介.....	10
ホームページ案内 .....	12
日々の学びのサポートガイド.....	13
レジュメの書き方見本～アカデミックリテラシー～ .....	14
レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～ .....	16
レポートの書き方ガイド2～社会学基礎演習～ .....	18
図書館文献検索ガイド～図書館より社会学科生のみなさんへ～ .....	20
社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～ .....	25
課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～ .....	28
社会学部生のための文献引用の手引き .....	30



# 社会科学の学びの進め方

---

社会科学での4年間の学びはどのように進んでいくのでしょうか。

基本となるのは、「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」(1年次)、「コース演習」「質的データ分析」「表現法演習」(2年秋)のといった少人数クラスと、3,4年次の「演習1」「演習2」(いわゆる「ゼミ」)です。これを軸に、専門科目と社会調査関連科目を計画的に履修していきましょう。

社会科学はコース制を採用しています。専門科目を履修する際には、コース科目をまず重点的にとっていくこととなります。コース選択は1年次の秋に行われます。コース科目をとりながら、より専門的に学びたい分野を考えておくとい良いでしょう。

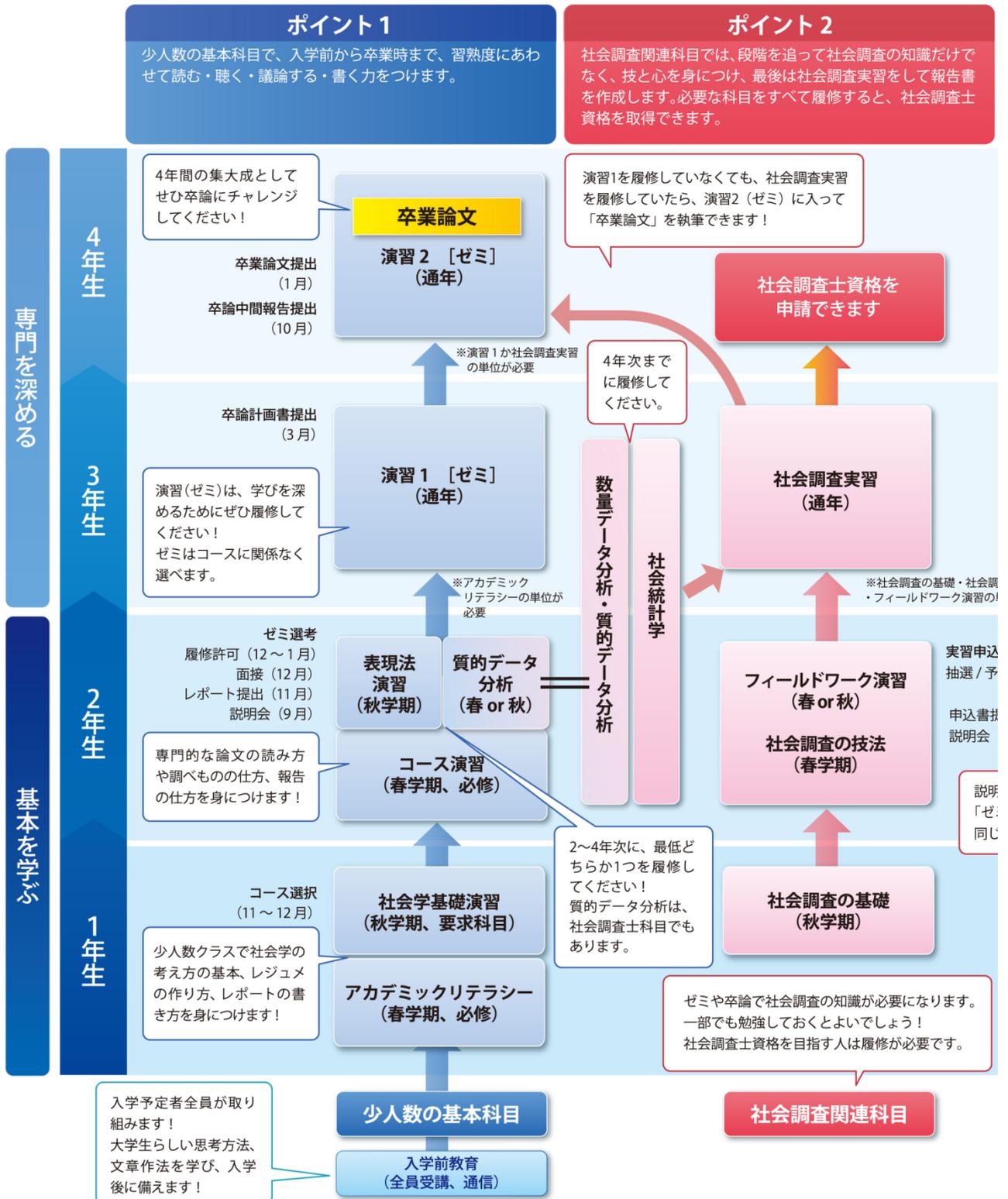
2年次の秋には、課題レポートと面接で、3,4年生に所属するゼミ(演習)を決めることとなります。ゼミを開講しているのは、主に専任の先生となります。ゼミが決まったら、2年間で専門を深め、学びの集大成として卒業論文の執筆にチャレンジしてください。

また、専門科目に並行して、社会調査関連科目を履修しておくこともおすすめします。所定の科目をとると、「社会調査士」という専門資格をとる道が開かれます。また、資格を希望しない人も、卒業論文を書く際に調査法の知識が必要となることもありますから、履修を検討してみてください。

4年間、計画的に履修を進め、学びが深まっていくことを期待します。

# 4年間の学びの見取り図

## 社会学科の学びの見取



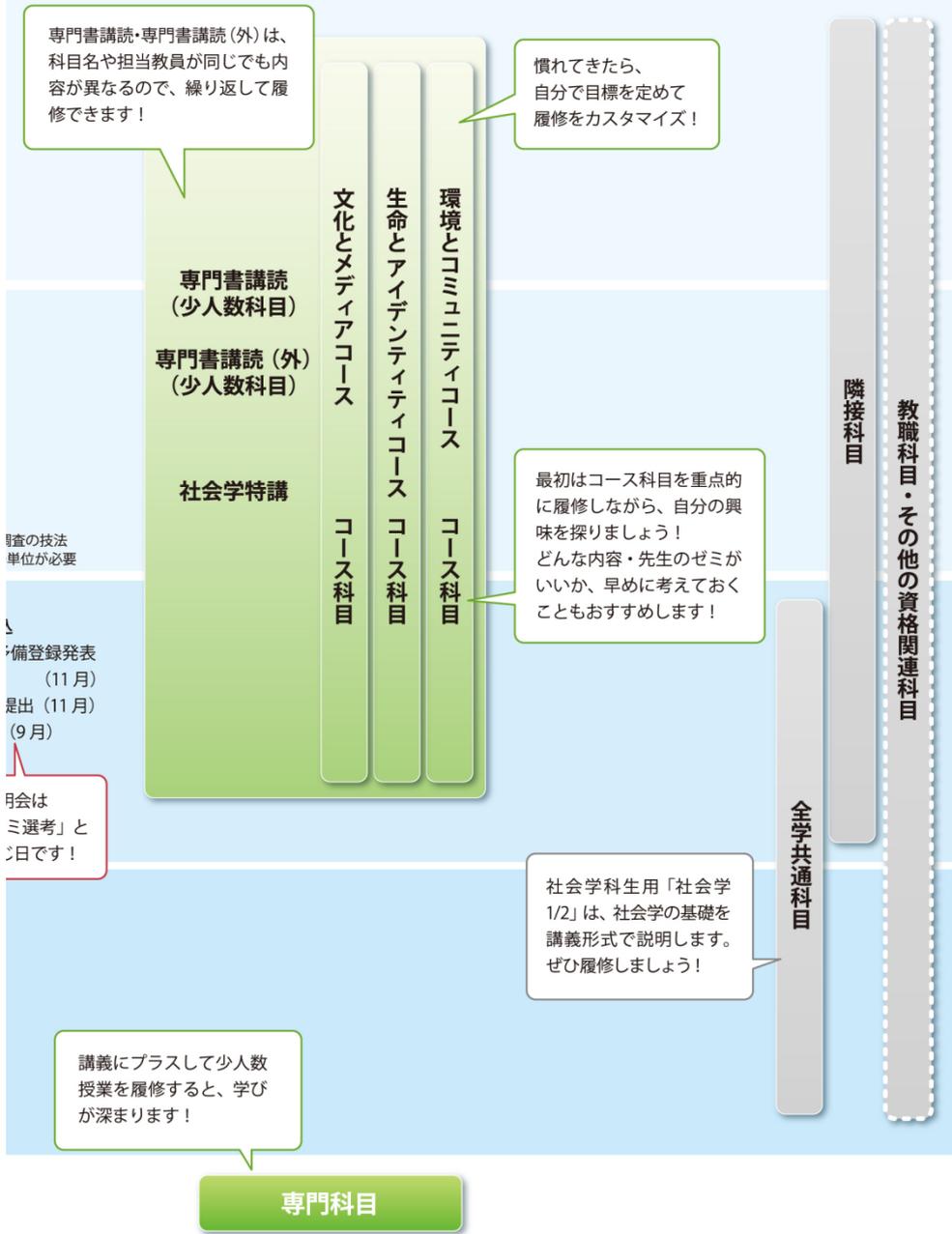
# 図

## ポイント 3

専門科目では、「文化とメディアコース」「生命とアイデンティティコース」「環境とコミュニティコース」のうち、自分の興味関心に沿ってコースを選び、科目を履修します。

## ポイント 4

定められた科目を履修すれば、中学「社会」、高校「地歴」「公民」の教員免許が取得できます。また、社会教育主事任用資格を取得できる科目も整えてあります。



専門書講読・専門書講読(外)は、科目名や担当教員が同じでも内容が異なるので、繰り返して履修できます！

慣れてきたら、自分で目標を定めて履修をカスタマイズ！

最初はコース科目を重点的に履修しながら、自分の興味を探りましょう！  
どんな内容・先生のゼミがいいか、早めに考えておくこともおすすめします！

社会学科生用「社会学1/2」は、社会学の基礎を講義形式で説明します。ぜひ履修しましょう！

講義にプラスして少人数授業を履修すると、学びが深まります！

専門科目

調査の技法  
単位が必要

準備登録発表  
(11月)

提出 (11月)

提出 (9月)

月会は  
「ミ選考」と  
「日」です！

## コース制とは

1年生秋に「文化とメディアコース」「生命とアイデンティティコース」「環境とコミュニティコース」のうち、自分の興味関心に沿ってコースを選び、2年次からはコース科目を重点的に履修します。他のコースの科目も履修できます。どのコースの科目も幅広い領域にわたって社会学の先端をカバーしています。

### 文化とメディアコース

メディアというとマスメディアやインターネットを思い浮かべるかもしれませんが、それが全てではありません。メディアの本来の意味は情報の伝達媒体ですので、口コミであっても立派なメディアです。

人々がどのように情報を生み出し伝達していったのかという、コミュニケーション過程とその影響は、人間の社会的活動の本質ともいえるでしょう。伝えられていった内容が、宗教や民族意識などの文化的基盤を築き、「社会」の姿を形成することもあるからです。

一方で、技術の発達によって、これまで物理的距離や社会制度の違いなどのために隔てられてきた人々や文化の交流が進むようになってきて、予想もしていなかった摩擦や問題などが発生する結果も生じました。こうした現実のどのように捉えるべきか、学んでいきます。

キーワード：宗教、エスニシティ、社会規範、コミュニケーション、情報

### 生命とアイデンティティコース

社会学というと、抽象的な「社会」なるものを研究対象として、個としての人間に関心が薄いと思っている人もいるかも知れません。けれども、実際には決してそんなことはありません。

むしろ、人間に関心があるからこそ、彼らがより良く生きるために「社会」はどうなっているのか、あるいはどうあるべきかに目を向けているといえます。そのため、科学技術の発展や社会制度の肥大化に伴い、一人一人の人間の姿が見えにくくなったり、その尊厳が脅かされかねなかったりする現状に対して、社会学は真剣に取り組んでいます。

人間の生の営みが、どのように「社会」から影響を受けているのか、あるいはどのように「社会」を変えていったのか、多彩な視点から学んでいきます。

キーワード：ジェンダー、セクシュアリティ、医療、健康、身体、犯罪、差別

## 環境とコミュニティコース

一口に「社会」といっても、意味する内容は多様ですが、変わらないのはそこに人と人の繋がりが存在していることです。たとえば、顔の見える人々で構成されたコミュニティは、私達にとって最も身近な「社会」で、家族はもちろん、住んでいる地域にも町内会などの形で存在していますし、学校や企業にも様々な形で含まれています。

一方で、全世界規模の人々のネットワークがますます拡大する時代を迎え、地球の裏側で起こったことが私たちの生活を変え、私たちの身近な行動の一つ一つが世界全体に影響を与えてしまうようになってきています。地球環境問題はその一例ですが、本来、環境とは地球規模だけで語られるものではありません。実は一人の人間を取り囲むもの、その全てが「環境」でもあります。

このように、私たちが当たり前と思っている身の回りの物事の背景の広がりや、縁遠いと思っている出来事が私たち一人一人の生活に与える影響などを、様々な視点から学んでいきます。

キーワード：社会的ネットワーク、地域、都市、教育、労働、家族



## 社会調査関連科目～社会調査士取得への道～

「社会調査士」資格は、2004年に新しくできた公的資格です。官庁・自治体などが行う各種の統計調査、企業やNPOなどが行う市場調査や世論調査に必要な社会調査の知識や技術を身につけ、さらに社会学の学習にとっても重要な社会事象等を捉える能力をもった「調査の専門家」を養成するために作られた資格です。

この資格は、資格試験を受験して取得する国家資格ではありません。社会学系の大学で設置されている社会調査士指定の科目を履修し、単位を取得した学生が、日本社会学会などの学会がもとになって作られた「一般社団法人 社会調査協会」に申請する（認定料が必要）と、大学卒業時に与えられるものです。

社会調査士資格には、「専門社会調査士」（大学院博士前期課程の大学院生対象）と、「社会調査士」（4年制大学学部生対象）の2種類がありますが、社会学科の学生が履修し資格申請できるのは「社会調査士」です。「専門社会調査士」を取得するには、まず学部で「社会調査士」を取っておく必要があります。

資格申請に必要な指定の科目をすべて履修し単位を取得するには、最低でも3年はかかりますので、社会調査士を取ろうと考える学生は、以下の説明をよく読んで4月からの科目履修を行い、計画的に学習することが必要です。

社会調査士指定科目は、いずれも社会学科の卒業単位となる学科科目でもあり、社会学を学ぶ上でも必要なものですが、とくに社会調査士の資格を取ろうとする場合は、3年次に設置されている1年間の「社会調査実習」を履修し単位取得しなければなりません。この科目を履修するには前年度までに「社会調査の基礎」「社会調査の技法」「フィールドワーク演習」の単位を取得している必要があります。また、卒業までに指定の6科目を単位取得しなければなりません。3年次までに必要な科目を履修・単位取得できる場合は、3年次のうちに「見込み申請」（取得見込み認定証の申請）ができます。

社会調査士の資格対象となる指定科目「社会調査士」資格の申請には、以下の指定科目を履修し単位を取得することが必要です。A~D、およびGの5科目はすべて履修する必要があります。E,Fの2科目はどちらかひとつを履修し単位取得していることが必要です。社会調査士資格を希望する場合は、1年次の科目履修では秋学期の「社会調査の基礎」を必ず履修してください。この科目は社会調査の入口になる科目で、横浜校舎だけで開講されるので、とっておかないと2年次以降の社会調査士科目の履修がたいへんになります

対象科目			
A	<b>社会調査の基礎</b> (社会調査の基本的事項に関する科目)	2単位 1年生以上	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。

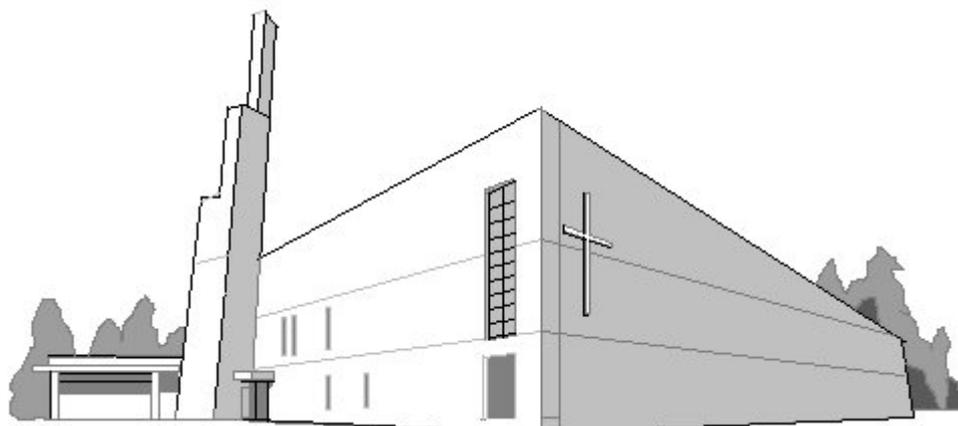
B	<b>社会調査の技法</b> (調査設計と実施方法に関する科目)	2単位 2年生以上	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など)、調査データの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成)など。
C	<b>フィールドワーク演習</b> (基本的な資料とデータの分析に関する科目)	2単位 2年生以上 ※人数制限あり	官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する授業。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。
D	<b>社会統計学</b> (社会調査に必要な統計学に関する科目)	2単位 2年生以上	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を教える科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、抽出法の理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。
E	<b>数量データ分析</b> (量的データ解析の方法に関する科目)	2単位 2年生以上 ※人数制限あり	社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル(たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、因子分析、数量化理論など)の中から若干のものをとりあげる。
F	<b>質的データ分析</b> (質的な分析の方法に関する科目)	2単位 2年生以上 ※人数制限あり	さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法(内容分析等)など。
G	<b>社会調査実習／社会教育調査実習</b> (社会調査の実習を中心とする科目)	4単位 3年生以上 ※人数制限あり	調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひとつおりの実習を通じて体験的に学習する授業。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収、面接)、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。

## 専任教員紹介

教員氏名	主要研究テーマ	ゼミ(または授業)内容
浅川 達人	都市の社会・空間構造 研究および被災地復興 支援活動研究	都市社会の構造転換とコミュニティの変容について、そこで暮らすあるいはそこを行き交う人々の流れに身をおいて考えます。また東日本大震災の被災地復興支援活動について社会的に考察します。
石原 俊	グローバリゼーションと コロナリズムの歴史 社会学的研究	19世紀以降、グローバリゼーションと植民地主義の前線に置かれた地域社会とりわけ島嶼社会の人びとが、苦闘を重ねながらどのように生きぬいてきたのか、歴史社会学的観点から考えていきます。
石原 英樹	異質な他者とのコミュニ ケーション・共存をめぐ る課題と解決	人々の認識や行動の非合理的な側面、現代社会のアポリア(行き詰まり)を理解した上で、異質な他者(世代、階層、性的マイノリティーなど)がコミュニケーションをとり、共存するために何が必要かを考えます。
稲葉 振一郎	倫理学・社会哲学の基 礎と応用	「人間」とはいったい何か。なぜ「人間」を大切にしなければならないのか、に関する共通理解がいま大きく揺らいでいる。具体的な社会問題を通して考えます。
岩永 真治	グローバリゼーション、 市民権、都市、地域、ま ちづくり	都市生活とはなにか、地域で生活するとはどういうことか。文化の多様性、社会参加、豊かさの問題等を考察し、だれもが参加できるまちづくりを提案していきます。
加藤 秀一	ジェンダー/セクシュアリ ティ、フェミニズムの理 論	性現象研究。性差・性役割・性差別、性暴力、恋愛、結婚・家族、同性愛/異性愛、生殖医療、優生思想など、「性」をめぐるあらゆる問題を根元的に考察していきます。
鬼頭 美江	対人関係における行動 と心理過程に関する研 究	対人関係(恋愛関係や友人関係など)の形成・維持に関わる要因、および対人関係と社会環境が相互に与える影響について考えていきます。
坂口 緑	生涯教育論、人間社会 と教育の関係について の考察	多層的な市民社会の形式に関心があります。生涯学習の理論と現場を往復し、消費と労働だけでない生き方モデルを探したいと考えています。
佐藤 正晴	日本のメディア、ジャー ナリズムの歴史的考察	現代社会を一定の歴史展望のもとにとらえるためのメディア史の実証的分析。さらにメディアという視角から政治・社会・文化・経済などを考察していきます。
澤野 雅樹	広義の侵犯行為の事 例を通じて、法と社会の 論理を考察	法と侵犯の研究。社会を構成し作動させる法と、社会の中で制定・施行される法とを区別し、主に前者に関わる逸脱行為を扱いながら、社会の根源にまで迫っていきます。
柘植 あづみ	医療・生命科学技術の 課題を文化・社会的文 脈から考察	現代医療の医療人類学的研究。生殖医療技術・生命科学技術と文化・社会的諸要因との相関関係を事例研究によって検討していきます。

野沢 慎司	現代の家族など人間関係ネットワークを幅広く考察	現代家族と社会的ネットワークの研究。離婚・再婚後の家族など多様な家族を取り上げ、親族・友人・支援団体などと関連づけて考察します。
半澤 誠司	コンテンツ産業の産業集積、取引関係、労働市場などの研究	文化的要素と経済的要素の双方が重要なコンテンツ産業を対象に、主に企業間関係に力点を置きながら、文化と経済の関係性への理解を深めます。
藤川 賢	社会学から地域開発と環境問題を考察	環境問題研究。現代社会の基本的矛盾を象徴する環境問題を、社会的に地域に即して分析し、その解決法を考えていきます。
水谷 史男	現代の職業と移動の実態を社会階層の視点から考察	職業と社会移動の研究。人が「働く」ということのもつ多彩な意味を、空間的・時間的な移動と社会的不平等の捉え方という視点から研究していきます。
元森 絵里子	子ども・教育・社会をめぐる言説の歴史的・理論的考察	教育や子どもに関する言説(議論)の歴史的変容を、そのメカニズムとともに分析します。言説に関する社会的視角についても考えていきます。
渡辺 雅子	宗教や移民そして人々の生き方を社会的に考察	近現代における宗教の動態について、社会変動を視野に入れて考察します。宗教を通して社会を解釈するとともに、人間にとって宗教のもつ意味とその変遷について考えていきます。

2015年4月1日現在(50音順)



## ホームページ案内

○社会学部ホームページ <http://soc.meijigakuin.ac.jp/>

○社会学科オリジナルサイト <http://soc.meijigakuin.ac.jp/gakka/>

社会学科の最新ニュースや、教員やゼミの情報、本ガイドの PDF 版など学びに必要な資料が入手できます。ぜひ活用しましょう。本 HP から、さらに以下の特別サイトに進めません。

- 社会学科のカリキュラムをわかりやすく説明するスペシャルコンテンツ「社会学とは」「社会学をつかう」「フィールドワーク主義」「顔の見える少人数クラス」の 3 本柱からなる基本カリキュラムの説明です。履修プランを立てるために、早めに全部読んでおくとよいでしょう。
- ブログ「日々の社会学科」  
社会学科の行事報告やゼミや教員の活動など、社会学科がわかるような記事をリアルタイムで発信していきます。先輩の活動からこれからの学びのヒントが得られますし、もしかすると自分が登場してしまうことも。ぜひこまめにチェックしてみてください！

○社会学部ツイッターアカウント @MGU\_SOC

日々の社会学科更新情報ほか、重要情報をつぶやきます。





## 日々の学びのサポートガイド

---

みなさんは、これから卒業まで、たくさんの調べ物をして、たくさん発表をしたりレポートを書いたりすることになります。

ここでは、まず、レジュメとレポートの書き方、考え方の基本がわかるように、1年次の「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」の教材を掲載します。もちろん、個々のレポートの内容や形式、分量は、授業や先生によって異なる場合がありますから、その都度指示を確認してください。しかし、準備の仕方や執筆の仕方の考え方の「基本」はこのガイドに凝縮されているはずです。

具体的に「先行研究調べ」や「事実調べ」をするためには、図書館やインターネットサイトを活用しましょう。「図書館文献検索ガイド」（図書館作成）と「社会統計・社会調査データ収集ガイド」（2年次コース演習の資料）を載せておきます。なお、「アカデミックリテラシー」と「社会学基礎演習」では簡単な課外活動をしてもらいますので、その際の手引きも載せておきます。より専門的な調査の技法は、ぜひ社会調査関連科目を履修して身につけてください。

最後に、レポートで忘れてはならないのは、自分の考え・文章と他人の考え・文章を区別することです。そのための「引用」という手続きについて、「社会学部生のための文献引用の手引き」を最後に掲載しました。卒論を書きあげるまで、社会学科で文章を書く際の最低限の「マナー」になりますから、早いうちに慣れてしまいましょう。

# レジュメの書き方見本～アカデミックリテラシー～

長谷川公一『社会学』（有斐閣、2007年） 報告用レジュメ

20××年×月×日

報告者：\*\*SG\*\*\*\* 明治 学院

## 第1章 親密性と公共性

### § 1 社会を発見するためのレッスン(pp. 18-22)

章、セクション(§)、小見出しは必ず書くこと。

#### ●見えない社会を見る

- ・目に見えない社会を自分の目で見るときのレッスンから始めることにしよう。私たちがその存在に気づかない社会を、自分の目で観察できるようになることは、社会学への第一歩である。

#### ●ジンメルのお話

社会とは人間と人間の中の「相互作用」である。

しかし、「間」はふだんは目に見えない。では、どうすれば見えるようになるのか？

特に重要な箇所やキーワードは下線や太字で目立たせる。

#### ●デュルケムのお話

「犯罪は正常的なものである」とはどういうこと？

→いつの時代のどの社会にも、犯罪行為として指弾される行為は存在している。なぜなら、社会そのものが犯罪をつくりだしているから。犯罪とは行為そのものに客観的に備わっている性質ではなく、社会によって犯罪的だとして非難される行為がその都度犯罪とされるのである。

〔これを一般化すれば〕

内容をわかりやすくするために、テキストの文章の順序を入れ替えたり、自分なりに言葉を補ったり、といった工夫をしよう。

「社会にはつねに適切な行為と不適切な行為を区別する基準、つまり規則が存在しており、この規則に照らして不適切とされる行為（の一部）が犯罪とされるのである。犯罪のない社会がないのは規則のない社会がないからにほかならない。」

社会はつねに規則からみて適切な行為と不適切な行為から成り立っている。むしろ、社会とは規則に従って適切な行為と不適切な行為が区別されている状態のことだというべきであろう。

聖人君子だけからなる社会においても、犯罪は存在するだろう。「社会学的に言えば、犯罪のない社会とは、適切な行為と不適切な行為を区別する基準がもはや存在しない社会、すなわち何をやっても非難されない社会のことであり、それは言い換えれば完全に秩序が失われた状態のことなのである」。

上の段落では、本文からの要約部分には括弧がなく、引用部分にはカギ括弧をつけている。このように、本文の一部をそのまま抜き出す引用（直接引用）と、それ以外（間接引用）を、つねに区別するように注意しよう。

★考察★「犯罪のない社会はない」というデュルケムの指摘と、その理由の種明かしには意表を突かれた。何とか反論しようと考えてみたが、どうしても思いつかなかった。

仮に殺人や強盗がない社会があったとしても、そこでは、たとえば「髪の毛を道路に落とすこと」だけで犯罪とされ、処罰の対象とされてしまうのかもしれない。そう考えると、治安の良い社会が必ずしも住みやすい社会というわけではないということになりそうだ。では、どのような社会が良い社会なのだろうか。

自分なりに具体例を思い浮かべながら、テキストの説明をより実感をもって理解するよう、積極的な姿勢で読んでいこう。

私たちが規則の存在に気づくのは、不適切な行為がなされたときである。したがって、社会を観察するには、不適切な出来事が生じている場面にこそ目を向けるべきなのだ。

### ●ウェーバーの教え

**価値自由**：事実認識（対象が何であるのか）と価値判断（対象が何であるべきか）との区別～たとえ不適切な出来事に直面しても、社会学の仕事は、人びとと一っしょになって対象を非難することではない。人びとがある対象を非難しているという事実を観察し、人びとがその対象を非難する背後にある規則を探り、そのような規則に従って成り立っている社会の仕組みを明らかにすることが社会学の課題である。

### ●論点

- (1) 現代の日本では「犯罪」あるいはそれに近いとされる行為で、他の時代や他の国で特に問題されない行為にはどんなものがあるだろうか？
- (2)(1)で例に挙げた行為について、なぜある社会では問題され、別の社会では問題視されないのだろうか？

# レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～

## 1. レポートの書き方——準備編

- 大学で求められるレポート（および論文）とは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。「客観的に」というのがポイントで、思い込みや感想だけを書き連ねても、レポートにはならないことに注意してください。小説のような説明不足気味の詩的表現も、唐突な決意表明で終わる投書欄向けの作文も、残念ながらレポートという場ではふさわしくありません。では何に注意すればいいのでしょうか。ポイントは二つ。ひとつは、「先行研究調べ」、もうひとつは「事実集め」です。
- 「先行研究調べ」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、これまでどのようなことが言われてきたのかを調べることです。専門書や論文を読み、気づいたことを付箋紙やノートにメモしましょう。
- 「事実集め」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、どのような具体的事実があるのかを調べることです。統計資料や新聞記事、白書、議事録、ルポルタージュを検索しましょう。いつでもアクセスできそうなサイトであっても、重要な図表はプリントアウトをして手元に置いておきましょう。アクセスした日付も忘れずにメモしましょう。
- レポートを書き始める前に、次の(1)～(3)を準備しましょう。(1) 関心のある領域について最低2点の文献を読み、そこに述べられていることを整理する。(2) 統計資料等で基本的な事実を確認する。そして(3)自分がレポートで書きたい「テーマ」を絞り込む。準備ができればさっそく書き始めましょう。

## 2. レポートの書き方——執筆編

- レポートの構成要素はシンプルです。「序論・本論・結論」。これに尽きます。けれどもその中身は？ 順に押さえるべきポイントをご紹介します。

### (1) 序論…テーマ設定の理由を書こう

- ・テーマとは、問いである

「テーマ」をどうやって絞り込むのか。これは大きな問題です。コツは、疑問文に変換すること。例)「〇〇について」→「なぜ〇〇は××なのか」あるいは「どのようにして〇〇は××となったのか」。漠然と〇〇だった「テーマ」を××という別の観点から疑ってみると、何を書きたかったのかが分かりやすくなります。レポートの冒頭に、このテーマを選んだ理由を書きましょう。

### (2) 本論…先行研究調べ、仮説、論証を書こう

- ・先行研究調べとは、比べることである

あなたがこれから書こうとしているテーマは、たとえものすごく独創的なもののように思えたとしても、他の誰かがすでに考察し終えた問題だったりすることがあります。がっかりする必要は

ありません。その人たちの力を大いに借りましょう（Google Scholar 風に言えば「巨人の肩の上に立つ」）。先行研究調べとは、「巨人たち」の知見を借りてきて比べることです。コツは、異同を見つけ、自分の立ち位置を示すこと。この部分の記述があれば、間違いなくアカデミックな文章に仕上がります。

- 仮説とは、さしあたりの答えである

ここであなたの頭脳の出番です。仮説を自由に考えましょう。何を考えるのか。さきほど「テーマ」にした「疑問文」に対する答えです。さしあたりの答えでかまいません。こうなのではないかと思ったことを「仮説」とし、先へ進みましょう。

- 論証とは、持論の正当化である

レポートのメインとなるのは、この部分。仮説に対する論証です。レポートは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。準備で調べたデータが手元にありますね？ ほら、こんなデータが、とおおっぴらに見せびらかしましょう。準備で文献を読んだ時のメモが手元にありますね？ ほら、この人だってこう言っている、と文献を引用し、他人を味方に引き入れましょう。そして別のパターンでも攻め込みましょう。「この人はこう言っているけれども、あの人はこう言っている」。いい技ですが、とっておきはこれ。「この人はもっともらしくこう言っているけれども、データを見ると実は疑わしい」の技です。文献を読み、データを調べ、引用し、多様な技で持論を正当化していきましょう。

### (3) 結論…結論を書こう

- 結論とは答えである

仮説を検証した結果、結局どうだったのかの答えを文章にしましょう。

## 3. 引用について

- レポートや論文で、自分の意見を客観的に述べるためには、根拠となる証拠を示す必要があります。それが引用です。
- 何より大事なのは、他人の考えや文章を利用する場合は、それが自分の考えや文章ではないということを明記するということです。ちなみに、プロの物書きや研究者がこの点を怠ると「盗作」や「盗用」の汚名に塗れ、作家生命ないし研究者生命が断たれるほど重大なことです。学生も同様です。本学でも「盗用」に対しては、厳しい処分が科されます。
- 引用の形式は、「社会学部生のための文献引用の手引き」を必ず参照してください。
- その他の細かい作法については、クラスの担当教員にどんどん質問してください。

## レポートの書き方ガイド2～社会学基礎演習～

ダメレポートを書かないために～改めてレポートとは何か～

- 序論（第1章）→テーマ設定をする
  - ・論じたいテーマを明確にする
    - ×「〇〇について」（例：いじめについて）
    - 「〇〇についての××論について」「××から見る〇〇について」（例：いじめが増加しているという議論について、ラベリング論から見るいじめ問題について）
  - ・そのテーマを論じるべきだと思った理由を述べる
    - ×着想のきっかけ・個人の思いだけを書く（例：「〇〇が好きだから」「〇〇が気になったから」）
    - きっかけが個人的なものでもそうでなくても、それが社会的な考察の対象になりそうだった理由を述べる 参考）「社会的想像力」（ライト・ミルズ）
    - ※社会的な問題、複数の人々に関わることをテーマに選ぶ
    - ※執筆の際のキーワードを3つ以上考えてみて、1つは社会学のテキストに出てきそうな用語にする
  - ・テーマを「問い」の形にする→疑問文の形にする（Yes/No or 5W1H）  
（例：いじめは増加していないのではないのか、いじめは本当に増加しているのか、いじめ問題をラベリング論から見るとどうなるか）  
→問うに値する問いを立てられるかどうかで、レポートの成否が半分以上決まる
- 本論（第2～4章）→「証拠」を示しながら、「答え」に向けての論を組み立てる
  - ・各章が「問い」から「答え」に至るのに必要不可欠なパーツであるべき
  - ・「証拠」＝①先行研究（参考文献や統計資料）からの引用、②自分で社会調査をして得たデータ
  - ・証拠をあげながら、それを自分なりに検討し、結論へと議論を組み立てていく
  - ・論理的に文章を組み立てることも重要
- 結論（第5章）→自分が序章に掲げた「問い」への筆者なりの「答え」を書く
  - ※「問い」に対応した「答え」にたどりつかないということは、レポートがどこかでねじ曲がったということ！→「問い」を立て直す？途中の論を考え直す？
  - ※「答え」とは、問題に対する改善策ではない。自分が立てた「問い」に対応していることが重要。（例：いじめは増加していないことがわかった、いじめに関するラベリング論は～、～、～の3つの立場があることがわかった）※当然、問いが「いじめ問題をどうしたら解決できるのか」だったなら、自分なりにたどりついた解決策が「答え」になるはず
  - ×唐突な精神論で締めくくる【最悪！】←これは、「問い」を立てて「答え」を導くという学問的作業とは無関係（例：ひとりひとりが努力していかなければならない、私も気をつけていきたい）
  - オプションで、今後の課題や、判明しなかったことなどを書くのはOK

- 参考文献→「社会学部生のための文献引用の手引き」に準じてきちんと書く
- ・引用の仕方がいい加減なレポートの評価は下がる
- ・盗用（いわゆるコピー）が判明した場合、試験のカンニングに準じた処分が下されることがある



## 図書館文献検索ガイド～図書館より社会科学生のみなさんへ～

教室が研究・学習の第一歩だとすると、図書館は第二の教室です。学生のみなさんが本や雑誌論文を見つけ、図書館員と相談し、調査を行い、レポートや論文を書き、学ぶ場所です。図書館を大いに利用し、社会へ出ても通用する情報収集力・活用力を身につけてください。

### リフレッシュしたいあなた



- CD・DVDもあります
- 新聞・雑誌もあります
- ない本はリクエストできます

MEIJI GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY

### 将来が気になるあなた



- 経済新聞
- ビジネス雑誌
- データベースで会社情報収集

MEIJI GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY

### 勉強モードのあなた

詳しくはガイドブックで！



- 授業に役立つ資料と環境があります
- インターネットも使えます

蔵書100万冊以上・OPAC・データベース・レファレンス・PC貸出・グループ閲覧室

MEIJI GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY

### まずは明治学院大学図書館にある本を読んでみよう、探し方は2つ！

#### 《OPAC を利用する》

自分の探している資料が明治学院大学図書館にあるか、どこに配架されているかを調べるためのデータベースが OPAC（蔵書検索）です。本の書名や著者名からだけでなく、テーマ（件名）からも探すことができます。ピンポイントで本を探すときに便利です。

#### アクセス方法

- ・ポートへボン＞図書館＞MyLibrary＞MyOPAC
- ・明治学院大学図書館ウェブサイト＞蔵書・情報検索＞OPAC

【明治学院大学図書館ウェブサイト】 <http://www.meijigakuin.ac.jp/library/>

#### 《図書館の書架へ足を運ぶ（ブラウジング）》

本はジャンルごとに並べられているので、興味のあるジャンルの書架を見ることが手っ取り早い方法です。

また、書架のあいだをめぐり、気になった本を手にとることで、思いがけない本に出会ったり、知識や関心が広がることがあります。本を読んで、気に入った本があったら、同じ著者の別の本を読んでみたり、巻末の参考文献一覧や引用文献リストにのっている本もたどって続けて読んでみましょう。

## 気になるテーマが見つかったら、雑誌論文を読んでみよう！

大学生のみなさんの学習で大事なことは先行文献を読むということです。レポート作成のときは、自分が決めたテーマについて、すでに研究されている内容(先行研究)はあるか、そこに書かれた内容は自分の考えと同じだろうか、参考になるだろうかと考えて、自分の意見を組み立てていくこととなります。雑誌に掲載されている個々の論文は OPAC では検索できないため、雑誌記事索引データベースを利用する必要があります。

### 雑誌記事索引データベースへのアクセス方法

- ・ポータルページ>MyLibrary>サブジェクトゲートウェイ>国内の論文記事を探す>各データベースへ
- ・図書館ウェブサイト>蔵書・情報検索>国内の論文記事を探す>各データベースへ

### ＊ ＊ 社会学科のみなさんに役立つ日本の雑誌記事索引・論文データベース ＊ ＊

#### CiNii Articles (サイニイ アーティクルズ)

国立情報学研究所 (NII) 提供。全分野の雑誌に掲載された、1600 万件の雑誌記事・論文の索引や抄録、400 万件の本文を収録。一般の学術雑誌、学会誌、大学紀要を総合検索できる国内最大のデータベース。

#### MAGAZINEPLUS (マガジンプラス)

国立国会図書館の「雑誌記事索引」に加え、年報類・論文集や、一般誌などを収録。

#### ざっさくプラス 雑誌記事索引集成データベース

明治初期から現在まで、日本で刊行された全国誌から地方誌まで検索できる。

#### Web OYA-bunko 大宅壮一文庫記事検索

一般大衆誌専門図書館の大宅壮一文庫提供の索引データベースで、1988 年以降の週刊誌・総合誌・女性誌などの大衆雑誌、一般雑誌を検索できる。

### ＊ ＊ 学術雑誌と一般雑誌 ＊ ＊

雑誌には一般雑誌 (Magazine) と、研究論文が掲載されている学術雑誌 (Journal) があります。大学図書館は学術雑誌を多数所蔵しています。

レポートや論文を書く際には、学術雑誌に掲載された論文の構成や参考文献、引用文献の体裁を参考にすることもできます。大学や学会などが発行する「研究紀要」も学術雑誌のひとつです。



## ～検索のコツ1 とっかかりのコトバの見つけかた～

テーマを決めてレポートを書く課題が出たけれど、何をテーマにしたらよいかわからない…、そんなときは、入門書の終わりにについている参考文献リストやインデックスにある単語を拾い出してみましょう。そこからヒントが見つかるかもしれません。また連想ワードを探してくれるデータベースを使うこともできます。

新書マップ「風」<http://shinshomap.info/search.php>

連想検索機能で漠然としたキーワードからでも関連テーマ 10 個を探し出し、星座表のように見せてくれます。

WebcatPlus (ウェブキャットプラス) <http://webcatplus.nii.ac.jp/>

連想検索であなたの選んだコトバの集まりを頼りに、あなたの関心に近い本を探します。

## ～検索のコツ2 キーワードの洗い出しをする～

思いついた単語、通常よく使われる単語だけでは、十分な情報収集はできません。様々なキーワードを洗い出してから検索することが、資料を網羅的に集めるコツです。辞書や百科事典、専門事典、データベース、ウェブサイトなどを使って、同義語・類義語、関連語、上位語・下位語を集め、コトバの概念・定義を下調べしましょう。

### 《参考図書を使う》

辞書事典をひいてコトバを調べましょう。図書館の「参考図書コーナー」には辞書、事典や統計、年鑑など下調べに適した図書があります。

### 《データベースを使う》

Japanknowledge Lib (ジャパンナレッジ リブ)

『日本大百科全書(ニッポニカ)』をはじめ各種辞書の横断検索と全文閲覧が可能。複数の辞書事典を読み比べることもできるほか、映像資料や関連サイトや参考文献も見ることができます。

### アクセス方法

ポートヘボン>図書館>MyLibrary>サブジェクトゲートウェイ>辞書・事典を引く>Japanknowledge  
図書館ウェブサイト>蔵書・情報検索>辞書・事典を引く>Japanknowledge

## ～検索のコツ3 メディアの特性をつかむ～

たとえば新聞記事データベースを使うときには、新聞というメディアの特性をよく考える必要があります。新聞は広く万人に理解されるコトバを使い、限られた紙面の中でより多くの情報を伝えるという特徴があります。すると、同じ事柄を表わすコトバでも、検索に適したコトバがあることがわかります。たとえば、「厚生労働省」と「厚労省」とではヒット件数が違うことに気づくでしょう。スポーツ新聞で「阪神タイガース」を「虎」と表わすのも一例ですね。

## ～検索のコツ4 検索結果が少なすぎる場合・多すぎる場合には…～

検索結果が1,2件しかヒットしないときや逆に何千件もヒットしてしまった時は、検索のしかたを変えてみましょう。対策1は「検索語を見直す」、対策2は「検索項目を変える」です。

### ①少なすぎる場合 (注: △はスペースを表します)

- ・ 検索語を切り分ける (例) 検索語: 児童虐待→児童△虐待      ・ 検索語を減らす
- ・ 同義語・類義語で検索しなおす (例) 検索語: 小学生→子ども
- ・ 検索項目を変える (例) 検索項目を「論文名」→「フリーキーワード」にする。

### ②多すぎる場合

- ・ 検索語を見直す (例) 格差△社会→格差社会      ・ 検索項目を追加する (例) 出版年: 2003年以降
- ・ 検索語を増やす (例) 検索語: 格差社会→格差社会△教育      ・ 本文リンクのあるもの限定する

# MyLibrary を使いこなそう！

MyLibrary はあなた専用のウェブ上の図書館です。大学図書館が提供するオンラインサービスのポータルサイトとして、各種情報を書斎のように整理して、活用できます。



ポートヘボンまたは  
図書館ウェブサイトからアクセス

ポートヘボンと同じID・  
パスワードでログイン

図書館所蔵資料の検索はここから。  
予約などのサービスがスムーズにできるほか、キーワード履歴が残る、自分の思考過程が整理できます。



●アラートサービス  
キーワードを設定すると、図書館の新着資料情報がメールで届きます。

●図書館からのお知らせ  
学部生向け、大学院生向けなどを分けて発信されています。

●サブジェクトゲートウェイ  
図書館が提供しているデータベースへの入口です。目的別、分野別、A-Z などから選び、「お気に入り」で使いやすいようにカスタマイズできます。

●図書館カレンダー  
白金・横浜別に確認できます。

●利用者サービス  
各種申込と状況照会はこちらからどうぞ。  
・貸出・予約状況の確認  
・返却期限延長  
・メールアドレスの変更  
・文献複写・貸借の申し込み  
・図書購入希望の申し込み  
など

※個人向けのお知らせは登録済みのメールアドレスへ届きますので、使いやすいアドレスを登録することをおすすめします。

●ブックマーク  
お気に入りの本を登録できます。

## 社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～

- ◆ 地域の基本状況を知るのには、まず五大センサス（国勢調査、工業統計調査、商業統計表、農林業センサス、経済センサス）を調べます
- ◆ 分野によって、ここからスタートするという基本的な調査があります
- ◆ 事実を調べる統計だけでなく、意識や行動を聞いた意識調査を利用することも多いです

※インターネットの URL は頻繁に変わるので、ここにはサイトの名前のみ載せておきます。検索サイトで検索して URL を探してください。

### (1) 政府統計

#### 政府統計の総合窓口「e-Stat」

- ・ サイト内の「統計関係リンク」で各府省庁の統計の概要がつかめるほか、検索機能などが充実しているため、ぜひ1度見ておくこと

※ 以下、各府省庁で集めている情報をあげるため、関心のある分野の省庁ページの「統計情報」のページをしてみる（すべて e-Stat からリンクされている）

※ 各省庁の「白書」も参考になる（新しいものは HP 上から閲覧できる）

**内閣府** （男女共同参画、青少年、少子高齢化、各種世論調査）

（有名な調査）国民生活に関する世論調査、社会意識に関する世論調査など

**総務省** （基本的な社会調査類、通信・情報）

（有名な調査）国勢調査、労働力調査、経済センサス、住民基本台帳人口移動報告年報、サービス産業動向調査、住宅統計調査、人口推計、家計調査、社会生活基本調査、通信・放送産業基本調査、通信産業実態調査、放送番組制作実態調査、通信利用動向調査など

**警察庁** （警察、犯罪、少年非行）

**厚生労働省** （人口・世帯、保健・医療、福祉、社会保障、賃金、労働・雇用等）

（有名な調査）人口動態調査、21世紀出生児縦断調査、21世紀成年者縦断調査、人口移動調査、出生動向基本調査、毎月勤労統計調査、若年者雇用実態調査など）

**国立社会保障・人口問題研究所** （人口・世帯、結婚・出産・離婚、移動、社会保障）

**文部科学省** （学校教育、社会教育、文化・スポーツ、科学技術）

（有名な調査）学校基本調査など

**環境省**（環境、公害）

**経済産業省**（経済活動、各種産業、消費）

（有名な調査）工業統計調査、商業統計表、特定サービス産業実態調査報告書など

**資源エネルギー庁**（環境、エネルギー問題）

**農林水産省**（食料、農林水産業）

（有名な調査）農林業センサスなど

**国土交通省**（土地、建築、国土、交通、運輸・物流）

（有名な調査）大都市交通センサス、物流センサス、貨物地域流動調査、旅客地域流動調査、土地基本調査など

**法務省**（法律・司法、犯罪・矯正、訴訟、登記、戸籍・出入国管理）

(2) その他 Web 上で閲覧できる重要な調査等

## **JGSS**

- ・ 2000 年からほぼ毎年実施されている多様な意識・行動項目を盛り込んだ全国調査
- ・ 大阪商業大学 JGSS 研究センターにてデータを公開、学部生（卒論など）やそれ以外の授業での利用も可能。これまでの成果である研究論文集がダウンロードして読める

## **全国家族調査 National Family Research of Japan (NFRJ)**

- ・ 日本家族社会学会が 1998 年以降 4 回実施している全国家族調査
- ・ HP で過去の調査報告書の内容すべてをダウンロードして読める。公開データだが、利用は大学院生以上

## **財団法人家計経済研究所**

- ・ 消費生活に関するパネル調査、家計調査ほか閲覧できる

## **ベネッセ教育総合研究所**

- ・ メニューの「調査・研究データ」から、ベネッセで行った調査（子ども、教育関係）へアクセスできる

## **東京大学社会科学研究所 SSJ データアーカイブ**

- ・ 統計調査、社会調査の個票データを収集・保管し、学術目的での二次的な利用のために提供（データ申請は、大学又は公的研究機関の研究者、教員の指導を受けた大学院生のみ可能だが、各種データの検索と概略の閲覧ができる）

### (3) そのほか役立つサイト名

#### ①本

- ・ **CiNii Books**

国内の大学や研究機関の図書館の書籍の横断検索、明治期以降の書籍の情報収集にも

- ・ **Bookplus** (学内) 昭和以降の国内刊行図書を目次など内容からも検索できる

- ・ **国立国会図書館 NDL-OPAC**

唯一の国立図書館として、納本制度に基づき蔵書を構築 (日本最大の図書館)、貸出不可

#### ②インターネット書籍検索・販売 (流通状況の把握にも)

- ・ **Books.or.jp**

日本書籍出版協会「データベース日本書籍総目録」中、現在購入可能な既刊分を検索可

- ・ **Amazon**

- ・ **紀伊国屋 Book Web**

- ・ **大学生協書籍インターネットサービス**

組合員ならば割引で購入可

#### ③論文・専門的な書物

- ・ **社会学文献情報データベース** 日本社会学会に登録された雑誌論文や著作の情報検索

- ・ **J-STAGE** 日本社会学会の『社会学評論』等メジャーな学会誌の論文が検索・閲覧可

- ・ **社会老年学文献データベース DiaL** 社会老年学に関する文献が検索・閲覧可

#### ④統計以外によく参考にするデータ

- ・ **国立国会図書館 近代デジタルライブラリー** 明治・大正期の書籍をデジタル閲覧できる

- ・ **政策情報プラットフォーム** 政府機関および政府関係機関等に所在する情報のデータベース

- ・ **ソキウス**

野村一夫さん (國學院大學) の社会学系サイト。社会学全般の情報・読み物が充実

迷ったときは・・・

- ・ 明治学院大学図書館とそのホームページを活用しよう！

- ・ 国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」(資料探しの入り口) も非常に参考になる！

# 課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～

課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～

明治学院大学社会学部社会学科

「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」

## 課外活動のてびき

危ない目に合わない  
人に迷惑をかけない  
怪しまれない

社会について学ぶには、社会を知る必要があります。社会調査にはもちろんいくつものルールがあり、そのルールについては「社会調査の基礎」(1年次秋学期)から始まる一連の社会調査士資格関連科目の中で、少しずつ身に着けていっていただきます。ですから、本格的に社会調査を実習するのは3年生になってからです。

ただ、ちょっと視点を変えてみたり、今まで見過ごしていたものに注意したりするだけでも、新たな発見が生まれるかもしれません。そこで、2013年度から一年次の「アカデミックリテラシー」と「社会学基礎演習」では、グループで大学の外に出て、街を新たな視点で観察してみる課外活動を行うことにしました。

社会調査に向けた基礎的な注意事項を学ぶ前に行う課外活動ですので、「フィールドワーク演習」や「社会調査実習」以上に、慎重に行動していただくかなくてはなりません(万一トラブルが生じた場合、すぐに課外活動が停止になってしまう恐れがあります)。

課外活動を行うにあたっては、次のことにくれぐれも気を付けてください

法律や交通ルール、立ち入り禁止の規制などを守るのは当然で、大学生としてのマナーが普段以上に重要なことも言うまでもありません。これについては、書かなくても大丈夫ですね???

### 「危険なところに近づかない」

…写真を撮るために車道に出ていく、普段なら近寄らない怪しい区画に踏み込んでみる、夜の街を歩いてみる、などの行動はしないでください。大事なのは、「いかにも珍しそうな冒険」ではなく、「日常の街を新たに観ること」です。

### 「人に迷惑をかけない」

…街の人に話しかける、並んで歩いて通行の妨げになる、家族や友達に協力を依頼する、などの行動は慎みましょう。学校の課題だからというのは、誰かに迷惑をかけたり、頼みごとをしたりする理由にはなりません。(なお、他人への依頼については、社会調査関連科目の中で学びます。)

### 「怪しまれない」

…これが一番難しいのです。普段だったら大学生が2, 3人しゃべりながら歩いていても、街の人は気にしません。でも、「あれ、この町のことを言っているみたいだ」と気が付いたら、「悪口じゃないか?」「何か、いたづらを?」と気になるかもしれません? ですから、課外活動の際には、コンビニや道路などでのおしゃべりは、しないでください。そのほか、お店、学校、人家などを覗き込む、写真を撮る、近所の人しか通らない路地に入り込む、などの行為も怪しまれるものになります。

### 「トラブル（かもしれないこと）にあったら」

… 怪しまれた・怒られた場合　まずは素直に謝りましょう。課外活動の趣旨をきちんと説明して、納得していただければ問題ありません。重ねてお詫びして、帰りましょう。どうしても納得していただけない場合、本学社会学部の連絡先をお知らせし、よほどの場合には、その場で連絡してください。なお、自分の電話番号や実家住所など、個人情報伝えるのは避けてください。

… 親切に話しかけられた場合　この場合は、むげに断らず、有効な情報は教えていただきます。ただし、個人宅などにあがること、どこかについていくこと、個人情報を教えることは避けてください。「課外活動として、学校から禁止されている」と伝えていただいて結構です。

… 身の危険を感じた場合　とにかく安全なところまで逃げましょう。その後、速やかに担当教員に連絡してください。

### 「緊急時の連絡先」

明治学院大学	社会学部共同研究室	03-5421-5570
	社会調査実習室	03-5421-5349

## 社会学部生のための文献引用の手引き

次のページから始まる「社会学部生のための文献引用の手引」は、社会学部の専門科目の課題レポートから卒業論文まで使う、引用の手続きをまとめたものです。

卒業までのすべてのレポートや論文は、この手引きの引用手続きのいずれかの方法を遵守して作成してもらいますので、ぜひ早いうちから慣れてしまいましょう。同じものは、いつでも学部ホームページで見ることができます。



# 社会学部生のための文献引用の手引き

## 三大原則

1. レポート・論文作成時の盗作厳禁
2. 自分の文章中で、文献や資料を参考にした箇所は明示すべし
3. 参考にした文献や資料は明記すべし

レポート・論文作成の際には、この三大原則に基づいた文献引用のルールを守らねばならない。守らない場合には、単位を落とす・評価が下がるなどの不利益を被っても文句は言えない。

引用には、元文献の記述をカッコ（「」）でくくってそのまま用いる「**直接引用**」と、元文献の記述を自分なりにまとめた「**間接引用**」がある。「間接引用」であっても、直接引用と同じく、参考にした文献の情報を必ず表示しなければいけない。

文献情報を表示する方式（文献挙示方式）には、大きく分けて次の2つがある。

## I .注を付ける方式

## II .簡略情報を表示する方式

担当教員から特別の指示がない限り、社会学部生は原則としてこのどちらかの方式に従わなければならない（教養科目等で別の方式を習った場合も、社会学部では本手引きに従うこと）。以下では、その2つの方式をそれぞれ具体的に説明する。また、両方の方式に共通して守らなければいけない原則も最後に説明する。

# I. 注を付ける方式

## (1) 基本的なこと

### 手順1: 本文の該当箇所の右肩に「( )」で注をつける

・・・橋爪大三郎によれば、「愛ゆえの結婚」というドグマが成立するためには、第一に、ピューリタンの性愛倫理が成立し、そのうえで、第二に、内面的な主体性が承認されなくてはならなかった<sup>(1)</sup>。・・・・・・  
・・・ミシェル・フーコーによればこの孤立化の積極的な効用に関して、トクヴィルは次のように主張しているという。「孤立状態に投げ込まれると受刑者は反省する。自分の犯罪にただひとりで直面すると、その犯罪を憎むことを学ぶのであって、その塊が悪によって無感覚になっていなければ、いずれ後悔がその塊を覆うようになるのは孤立状態においてである」<sup>(2)</sup>。

### 手順2: レポートの巻末に「注」(註とも書く)をつける

#### 注

- (1) 橋爪大三郎『性愛論』岩波書店、1995年、115-185頁。
- (2) フーコー, M. 『監獄の誕生：監視と処罰』(田村淑訳)新潮社、1977年、236頁。
- (3) ここでいうxxとは・・・
- (4) 前掲(1)、120頁。

補足：①注の番号は通し番号にする。

②注は番号ごとに改行する。

③注(3)のようにして、論旨に直接関係はないが、本文でふれた事項をさらに補足説明する場合にも注は用いられる(説明注)。

④同一文献を再度引用する場合は、注(4)にあるように「前掲(1)、120頁」のように記す。これは、「注(1)で表示した文献の120ページを参考にした」、という意味である。

## (2) 注の中での文献情報表示形式

文献と一口にいても、色々な種類があり、それぞれ示すべき情報が微妙に違う。以下の原則に従い、過不足なく文献情報を表示しなければならない。

### ① 日本語単行本：著者名『書名：副題』出版社名、出版年+年、引用頁+頁。

※著者が複数いる場合、記載された順に書く(以下同じ)

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない(以下同じ)

例)

小熊英二『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社、1995年。

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之『社会学』有斐閣、2007年、5頁。

### ② 日本語編書全体：編者名+編『書名』出版社名、出版年+年。

例)

船橋晴俊編『講座環境社会学2：加害・被害と解決過程』有斐閣、2001年。

### ③ 日本語編書の一部：著者名「論文題名」編者名+編『書名』出版社名、出版年+年、論文の初頁-終頁+頁(引用頁+頁)。

例)

船橋晴俊「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学12：環境』東京大学出版会、1998年、191-224頁(191頁)。

- ④**翻訳書**：著者名『訳書名』（訳者名+訳）出版社名，翻訳の出版年+年，引用頁+頁。  
 ※著者名は、ファミリーネーム、ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル。の順に並べる  
 例)  
 フロム, E. 『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社，1951年，256頁。
- ⑤**日本語雑誌論文**：著者名「論文題名」『雑誌名』巻(号)，出版年+年，論文の初頁-終頁+頁（引用頁+頁）。  
 例)  
 山本泰「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，1993年，262-281頁（270頁）。
- ⑥**翻訳論文**：著者名「翻訳論文の題名」（訳者名），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），論文の初頁-終頁+頁（引用頁+頁）。  
 ※論文全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない  
 例)  
 マッカーシー, J. M.・メイヤー, N. Z. 「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，1989年，21-58頁（23頁）。
- ⑦**外国語単行本**：著者名, \_書名, \_出版社名, \_出版年, \_p.+引用頁。  
 ※「\_」は半角スペース（以下同じ）  
 ※外国語文献の場合、頁は「p.○」または「pp.○-○」と表記する（以下同じ）  
 例)  
 Parsons, T., *The Social System*, Free Press, 1951, pp.1-25.
- ⑧**外国語編書**：編者名 ed., \_書名, \_出版社名, \_出版年, \_p.+引用頁。  
 ※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする  
 例)  
 Camagni, R. ed., *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press, 1991, p.30.
- ⑨**外国語編書の一部**：著者名, \_“論文名,”\_編者名 ed., \_書名, \_出版社名, \_出版年, \_pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。  
 例)  
 Beck, U., “Self-dissolution and Self-endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,” Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, 1994, pp.174-183(p.175).
- ⑩**外国語雑誌論文**：著者名, \_“論文名,”\_雑誌名\_巻(号), \_出版年, \_+論文の初頁-終頁(p.+引用頁）。  
 例)  
 Wrong, D. H., “The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology,” *American Sociological Review* 26, 1961, pp.183-193(pp.183-184).
- ⑪**年次刊行物**：編集機関名『題名』年次，引用頁+頁。  
 例)  
 経済企画庁『国民生活白書』平成6年版，101頁。
- ⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）。  
 例)  
 「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）。
- ⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り）「題名」（URL）閲覧年月日+閲覧。  
 例)  
 「明治学院大学社会学部」（<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>）2010.4.20閲覧。

## II. 簡略情報を表示する方式

### (1) 基本的なこと

手順1: 簡略情報「(著者の姓 出版年: 引用ページ)」を文中に埋め込む(※「\_」は半角スペース)

・・・橋爪大三郎によれば、「愛ゆえの結婚」というドグマが成立するためには、第一に、ピューリタンの性愛倫理が成立し、そのうえで、第二に、内面的な主体性が承認されなくてはならなかった(橋爪 1995: 115-185)。・・・・・・・・

・・・ミシェル・フーコーによればこの孤立化の積極的な効用に関して、トクヴィルは次のように主張しているという。「孤立状態に投げ込まれると受刑者は反省する。自分の犯罪にただひとりで直面すると、その犯罪を憎むことを学ぶのであって、その塊が悪によって無感覚になっていなければ、いずれ後悔がその塊を覆うようになるのは孤立状態においてである」(フーコー 1977: 236)。

補足: ① 著者が2名以上の場合は、「・」でつなぐ。3名以上いる場合は、2人目以下を「他」として省略してよい。なお、手順2で説明する参考文献表内では省略してはならない。

② 同一著者で出版年が同じ書籍の場合は、「(山田 1996a: 95)」「(山田 1996b: 103)」などと、出版年にabc...をつけて区別する。同姓の著者で出版年で区別が難しい場合は、名前まで記す。

手順2: 論文もしくはレポートの末尾に参考文献表をつける

#### 参考文献

フーコー, M., 1977, 『監獄の誕生: 監視と処罰』(田村叔訳) 新潮社.  
フーコー, M., 1986, 『性の歴史II: 快楽の活用』(田村叔訳) 新潮社.  
橋爪大三郎, 1995, 『性愛論』岩波書店.  
ルーマン, N., 2005, 『情熱としての愛: 親密さのコード化』(佐藤勉・村中知子訳) 木鐸社.  
Murstein, B. I. ed., 1971, *Theories of Attraction and Love*, Springer.  
大澤真幸, 1998, 『恋愛の不可能性について』春秋社.

補足: ① 正しい文献表示法は、以下で説明する文献表の文献情報表示形式に従う。

② 文献を並べる順番は、日本語文献・外国語文献にかかわらず姓のアルファベット順、同一著者の場合は出版年順とする(出版年も同じ場合は、簡略情報との対応に注意して、出版年にabcとつけて区別する)。

### (2) 文献表の文献情報表示形式

① **日本語単行本**: 著者名, 出版年, 『書名: 副題』出版社名.

※著者が複数いる場合、記載された順に書く(以下同じ)

例)

小熊英二, 1995, 『単一民族神話の起源: 〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之, 2007, 『社会学』有斐閣.

② **日本語編書全体**: 編者名+編, 出版年, 『書名』出版社名.

例)

船橋晴俊編, 2001, 『講座環境社会学2: 加害・被害と解決過程』有斐閣.

③ **日本語編書の一部**: 著者名, 出版年, 「論文題名」編者名+編『書名』出版社名, 論文の初頁-終頁.

例)

船橋晴俊, 1998, 「環境問題の未来と社会変動: 社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学12: 環境』東京大学出版会, 191-224.

- ④**翻訳書**：著者名，翻訳の出版年，『訳書名』（訳者名+訳）出版社名。  
 ※著者名は、ファミリーネーム、ファーストネーム・ミドルネームのイニシャルの順に並べる  
 例)  
 フロム, E., 1951, 『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社。
- ⑤**日本語雑誌論文**：著者名，出版年，「論文題名」『雑誌名』巻(号):論文の初頁-終頁。  
 例)  
 山本泰, 1993, 「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3):262-281.
- ⑥**翻訳論文**：著者名，翻訳論文の出版年，「翻訳論文の題名」（訳者名），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），論文の初頁-終頁。  
 例)  
 マッカーシー, J. M.・メイヤー, N. Z., 1989, 「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社, 21-58.
- ⑦**外国語単行本**：著者名, \_出版年, \_書名, \_出版社名。  
 ※「\_」は半角スペース  
 例)  
 Parsons, T., 1951, *The social system*, Free Press.
- ⑧**外国語編書**：編者名 ed., \_出版年, \_書名, \_出版社名。  
 ※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする  
 例)  
 Camagni, R. ed., 1991, *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press.
- ⑨**外国語編書の一部**：著者名, \_出版年, \_“論文名,”\_編者名 ed., \_書名, \_出版社名, \_pp.+論文の初頁-終頁。  
 ※外国語文献の場合、頁は「p.○」または「pp.○-○」と表記する  
 例)  
 Beck, U., 1994, “Self-dissolution and Self-endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,”  
 Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, pp.174-183.
- ⑩**外国語雑誌論文**：著者名, \_出版年, \_“論文名,”\_雑誌名\_巻(号):\_論文の初頁-終頁。  
 例)  
 Wrong, D. H., 1961, “The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology,” *American Sociological Review* 26: 183-193.
- ⑪**年次刊行物**：編集機関名，出版年，『題名』年次。  
 例)  
 経済企画庁，1994，『国民生活白書』平成6年版。
- ⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）。  
 例)  
 「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）。
- ⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り）「題名」（URL）閲覧年月日+閲覧。  
 例)  
 「明治学院大学社会学部」（<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>）2010.4.20閲覧。

### Ⅲ. 引用時の諸注意

#### (1)直接引用

元著者の表記を尊重し、誤字があっても、最大限原文通りに記載する。ただし、引用文中にカッコが用いられている場合、引用文中のカッコは引用を示すカッコ（「」）と区別するため二重カッコ（『』）に変更する。

#### (2)名前の表記法

Ⅱで説明した文献の簡略情報を表示する際以外に本文中に記載する人の名前は、初出のときは姓名を書き、2度目以降は姓のみでもよい。一般的に、敬称（先生、教授、博士など）は付けない。

#### (3)インターネット上の情報

不特定多数の人間によって頻繁に更新されるもの（例えば Wikipedia）や揭示期間の短いもの（新聞のネット記事等）は引用に適さない。

#### (4)孫引き

A という著者の文章を引用した B という著者の文章に基づいて、A の文章をレポート・論文の中で引用すること（孫引き）は原則として避けるべきである（原典に当たることが望ましい）。やむをえない場合は、注で両者の関係を明確に示す。

社会学科生のための学びのガイド 2015

---

2015年4月1日発行

編集・発行 明治学院大学社会学部社会学科  
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

印刷所 (有)ワックプロダクションズ

表紙の絵・イラスト (7,11,19,30 ページ)

水谷史男 (社会学科教員)